

高度ICT人材育成のための実践的教育に対応した同期型eラーニングシステム の普及のための活用方法に関する実証実験（調査研究）の概要

目的

現在、高度ICT人材の育成は都市部に集中して行われているが、地域間の受講機会の格差是正を目指し、遠隔地間の学習や育成機関の連携をスムーズに行う必要がある。一方で、高度ICT人材育成の重要な対象となる企業人や専門職大学院の社会人学生などは、業務時間の関係から集合教育に長時間参加するのが容易ではなく、柔軟で効率的な学習環境の整備が必要とされている。

このため、高度ICT人材育成を支援するeラーニングシステムやその支援機能等を備えたプラットフォームの開発と実践的な人材育成のためにPBL（Project Based Learning）（※1）の手法を活用したブレンディッドラーニング（※2）による学習モデルの確立が必要であることから、平成19年度に総務省が開発したeラーニングシステムについて、これまで利用したことのない育成機関（高等教育機関、研修期間）における実際の講義等で活用する実証実験を行い、特に新たに導入、利用を行うという観点からシステムの有効性、システムを活用した多用な学習モデルの検証を行うとともに、実証実験を通じて高度ICT人材育成を行う上でのeラーニングシステムの有効性に対する理解を広め、今後の利用促進を図る。

（※1） PBL（Project Based Learning）とは、学習者にある課題を与え、それに対する解決策を導き出させる教育手法。通常、複数の学習者がチームを作り、実際のプロジェクトや擬似的なプロジェクトに参加させることで、そのプロジェクトの過程を通じ、課題解決の手法や能力を体得させる。

（※2）本事業におけるブレンディッドラーニング（Blended Learning）とは、集合教育（対面授業）とeラーニングの組み合わせによる学習・教授法のことととする。

実証実験（調査研究）の内容

平成19年度に総務省が開発した高度情報通信人材育成のための同期型e-ラーニングシステムについて、これまで利用したことのない、育成機関（高等教育機関、研修機関）における実際の講義等で活用する実証実験を行い、講師、メンター、管理者、学習者のそれぞれの観点から、システムの有効性、システムを活用した学習モデルの検証等を行う。